

〔華實年浪草^{十月}〕爐開〔中略〕茶人設茶會於爐邊飲燕謂之爐開會

〔東都歲事記^{十月}〕朔日爐開〔其略〕茶會を備す親戚朋友を饗す

〔改正月令博物筌^{三月}〕晦日〔又〕爐塞ともかけり茶人の爐をふさぐ也およそ茶湯の法爐閉〔又〕爐塞ともかけり茶人の爐をふさぐ也およそ茶湯の法十月より今月晦日限りにして四月朔日より風爐なり

〔和泉草^三〕開爐閉爐ノ時分

一老者ハ十月ニ早ク開二月ノ末ニ閉少壯ノ人ハ十月遅ク開テ正月末閉又床ノ具名物所持ノ人ハ遅ク開爐シ春早ク閉天目茶碗釜ノ類所持ノ人ハ初冬早ク開爐シテ春モ遅閉ト云

〔茶道要錄^{主上}〕風爐之事

風爐ハ元春秋ノ差別ナク暖氣ノ時用ユ火ハ極陽ノ純精故ニ上レリ爐ハ下ニ有テ火氣強熾タリ是以冬專ニ用ユ暖カナル時ハ必ズ風爐ニ上テ涼カラシム其文字ヲ以テ考ベシ末流ニ四月朔日ヨリ風爐十月朔日ヨリ開爐スト云リ不用之唯時節ニ不拘寒温ノ其日ニ隨フ事肝要也世間寒則七八月ニモ開爐スベシ暖氣ニ付テ正月三日ニ風爐ニ揚シ利休之例アリ

〔喫茶指掌編^三〕宗旦時代までは春暖なれど未風爐に難上時に爐蓋の上に風爐を置て點茶せし事有、四疊半切の爐に蓋をして、其上に風呂を置て、釣釜などをもせし

こは道安利休を招し時の執向より始の趣なり宗旦より風爐の釣釜やみしは尤なり潤色して善に至と云べし

〔茶話指月集^上〕むかしは四疊半の爐夏に成りて板にて塞ぎ風爐をそのうへになをし釜をば鏝又は自在にても釣さげ圍爐裏だてのやうに水指を置合せ茶をたつる也侘などには似合て、こゝとさら面白く覺えし

〔喫茶指掌編^三〕或時紹智悴了智を召連古田織部へ茶に行し卯月の初めなりしが未爐にて有ける織部云古人爐を惜し故我も名殘多く存る故今日も爐に致たりと也此事後に了智庸軒に咄